

'97年の年頭にあたって

日本オペレーションズ・リサーチ学会会長
埼玉大学

刀根 薫



新年おめでとうございます。

今年は学会創立40周年にあたります。近藤次郎先生を委員長とする40周年記念事業企画推進委員会が着々と準備を進めています。6月2日に経団連会館で記念シンポジウムが行われます。また、各支部でも同様な行事を予定しています。懸賞論文も募集していますので奮ってご応募ください。(締切り5月末日。)今年が学会発展のための大きなステップになることを願っています。会員の皆様のご支援をたまわりますよう切にお願いいたします。

さて、お正月に免じて多少羽目を外した話になるかと思いますが、どうぞ、おとそ気分で気楽にお読みください。

五感を大切に

〈知の巨匠〉アリストテレスの頃から、人間には五感があると認識されていたようです。視覚、聴覚、味覚、触覚、臭覚です。(こういった当たり前のことをきちんと言うところからスタートした古代ギリシャの〈知〉の世界は素晴らしいですね。)五感、人間だけのものではありません。生理的に見れば他の動物の方が優れているものもあります。しかし、これらの感覚の上に文明や文化を築きあげたのは人間だけです。視覚をもとに、広い意味での美術が生まれ、聴覚が音楽を築きます。各分野で天才と呼ばれる人達が現れて、多くの傑作を遺しています。私の好きな絵画で言えば

Botticelliの「春」「ヴィーナスの誕生」、Cézanneの「静物」、Goghの「ひまわり」、Picassoの「泣く女」、三岸好太郎の「海洋を渡る蝶」等々です。また、好きなヴァイオリン音楽ではBachの「シャコンヌ」、Schubertの「アルペジオーネ」、Franckの「ソナタ」等々。大事なことはこれらの傑作を後生の人が一若干時間がかかる場合もありましたが一高く評価するに至ることです。私はこの現象を人間の五感がまだ正常に機能している証拠であると思っています。〈知〉の世界が健全な五感の上に築かれることは言うまでもありません。最近、教育の問題が、何か問題が起こる毎に論ぜられています。私の知る限り、五感を大切にすることの重要性を指摘したものは少ないようです。余談になりますが、学校給食で味覚を侵され、プラスチックの食器で触覚を鈍らされ一我々には陶磁器の豊かな伝統があるというのに、自動車の排気ガスで臭覚を駄目にして、果たして日本の未来はどうなるのでしょうか。

もっと Fantastic で Beautiful で Interesting なものを

絵画や音楽や学問の世界で天才達が達成したこと動機は何でしょうか。私の独断で言わせて頂くなれば、fantastic で beautiful で interesting なもの(以下、FBIと略す。若干連想は悪いですが)に対する飽くなき執着です。彼等は、これまでにない fantastic style で世に現れ、beautiful com-

position を示し、interesting development を達成します。そして世間の多くの人達は後になって彼等の優れた感性に気づくのです。造物主—もしそれがあるならば—は我々の遺伝子のなかに FBI に対する強いあこがれを組み込んだに違いありません。(もっとも、邪魔な遺伝子も入れたようですが。)これらの作品に接する度に我々はリフレッシュされるのです。私事にわたって恐縮ですが私は40数年前に Bach のシャコンヌを習って以来、時にふれて、興の赴くままに再挑戦しています。(これはアマの特権。)わたしの腕前では一通り終わるのに数ヵ月はかかりますが、弾くたびに新しい世界を発見します。「小宇宙」といわれる Bach の FBI は、あらゆる学問や芸術分野をとおして、最高のものでしょうか。さて、このような FBI を持った天才は現在でも存在するか。芸術の分野では目下小休止中のようにです。(私が気が付かないだけかな。)それに対して、現代は科学技術の時代と言われます。こちらの方はどうでしょうか。1978年に私はロサンゼルスでパソコンショップの前身に初めてお目にかかりました。Microsoft 社の誕生から間もない頃です。8ビットのCPUを用いた、今のパソコンから見れば、おもちゃのようなものが展示されていましたが、これはまさに FBI でした。若い人の中には当時の状況を知らない人もいますので、少し説明します。その頃は、高速、大容量のコンピュータが時流でした。各社は血眼になって超大型機の開発競争をしていました。個人は端末機を通して中央の大型機をシェアすればよいという発想です。私は、この方向は個人のユーザーにとっては beautiful でないと感じ、疑問を持っていましたので、初めて8ピッ

トのパソコンを見た瞬間に「これだ!」と思いました。大勢で頭脳を共有するよりは、例え幼稚であっても自分のものを身近に所有することの方がどんなに素晴らしいことでしょうか。その後、直ぐに Apple II を入手して、それ以来パソコンの FBI の世界を楽しんでいます。コンピュータに限らず、商品開発に携わる人には豊かな感性が要求されます。

オペレーションズ・リサーチの FBI

私は OR の FBI は fantastic model, beautiful algorithm, interesting application であると思っています。この三者の結合は、僅か50年程度の OR の歴史の中で、輝かしい成功を収めてきました。最近、「OR はもう時代遅れだ。」という人がいますが、OR の関係者が FBI を強く意識しているならば、OR はこれからもっと多くの面で使われるようになるでしょう。OR はそれに応える資質を十分に備えています。Microsoft Excel のアドインソフトに Solver があります。Microsoft 社のどのような戦略の下にこのソフトがアドインされたかは知りませんが—おそらくポートフォリオ選択のためでしょう—数理計画が Windows95 や Mac の OS のもとに堂々と入って来たのです。OR にとっては願ってもないチャンス到来です。この追い風を OR の普及のために大いに利用しようではありませんか。

結 び

酔歩のような挨拶になってしまいましたが、今年もどうぞよろしく願いいたします。妄言多謝。